

白血球が増加した時に受ける検査



日本臨床検査医学会
北村 聖

健康診断や病気の時の簡単な血液検査でも必ず白血球数を測定します。この血液検査などで白血球数が多いと言われた場合の、より詳しい検査について述べます。

白血球の基準値



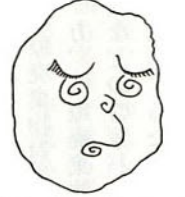
血液に含まれる細胞成分には赤血球、白血球、血小板があります。白血球の働きは、細菌やウイルスなどの外敵から体を守る事です。白血球は通常1万/mm³以下(平均6,500/mm³)です。白血球数が1万mm³以上の時は白血球増加として病気がないかさらに詳しい検査を行います。ただし小児では白血球は成人より多く、1~2歳までは健常者でも1万/mm³以上あります。白血球増加で血管が塞がるなど直接的な障害は10万/mm³程度まで起こりません。白血球の中には好虫球(45~65%)、リンパ球(30~40%)、単球(3~8%)、好酸球(3~5%)、好塩基球(0~2%)があり、それぞれ顕微鏡で分類されます。

白血球が増える病態(イラスト)

イラストにあるように白血球増加症は増加する白血球の機能によって分類されます。白血球の場合は腫瘍細胞の白血球が増加します。感染症では、細菌と戦うべく白血球が増加します。また、増加する白血球の種類によっても分類できま

す。白血球の中でも、好中球が主に増加する疾患としては急性、慢性的の骨髄性白血病、骨髄繊維症や血小板増加症などの骨髄増加症候群があります。感染症、尿毒症などの代謝性疾患、心筋梗塞や癌などの全身性疾患で増加します。非常に多くの疾患が含まれており詳しい検査が必要となります。また健常人でも喫煙者やストレスの多い人として白血球増加がしばしば診られ

熟な細胞が増加しているの
でこれだいたい見当がつ
きます。成熟した細胞が増
加している場合は感染症を
念頭において検査を進めま
す。しかし白血球と区別が
つかないような事も多く、
類白血病反応と呼ばれ、癌
や栗粒結核や肺炎などが代
表的ものです。白血病を疑
った場合、次に骨髄穿をし
ます。胸骨や腸骨に針を刺
し骨髄液を採取し細胞の形
態を観察したり、遺伝子を

	悪い(腫瘍性)の白血球が増加 ●白血球 (急性・慢性/骨髄性・リンパ性) ●骨髄増殖性症候群 など
	戦う白血球が増加 ●細菌感染症 ●ウイルス感染症 ●癌(胃癌など)
	困った白血球が増加 ●自己免疫疾患など

ます。リンパ球増多を来す患者としては、急性・慢性的のリンパ性白血病や感冒、風疹、伝染性単核症などのウイルス感染症、結核や梅毒などの慢性感染症があります。単球や酸球、好塩基球が単独で増加するのは希です。

診断のための検査

白血球が増加している場合、まず顕微鏡で増加している細胞の形態を観察しま

調べたりします。感染症の場合には発熱などの全身症状があることが多く、その際の検査は血液検査で炎症マーカーを調べたりレントゲン撮影や細菌検査をして炎症の部位と原因菌の特定を急ぎます。健康診断で1~2万/mm³程度の好中菌増加を見る頻度が一番多いのは喫煙者で、その他の検査に異常がなければ禁煙を指導することにより好中球は減少します。